



叢書

服部文庫
117
43
1



117
43
1

一 実用館讀例

一 小野寺十内夫妻歌

一 其角書 取付

一 古書状

嶋津瀬川采女妻

豊嶋氏

木村長門守

神原康政



実用館讀例

兵原 平山潜子龍氏輯

夫書ヲ讀ミ學子ヲ勤ムルニ手ヲ下レ歩ヲ進ムル
ノ次序ヲ得サレハ愈讀テ愈誤リ愈勤テイク
迷フ是以竊ニ其次序ヲ録シテ同志ニ示ス初学
ノ先見ルヘキ書ハ小学子ヲ以テ第一トス此書ハ聖
賢ノ書ノ中ヨリ專ラ我身ヲ脩メ整ルレカク
ヲ拔萃ヤシモノニテ初学ノ手ノ届キ安クサシ當
リ先知ラテ叶ハサルコトヲ學子テ大学ノ基本ト

セリナリ朱紫陽ノ言ニ身ヲ脩ムル大法ハ小学ニ
備ハレリトアリ元ノ許魯齋モ小学ヲ得テ学
ニ進ムノ序ヲ得タリト云リ其次ニ家禮ヲ讀ヘ
シ是我カ家ノ内ニテノサシ當リタル作法知ラテ
叶ヌトノ大スキヲ述フ小学ニソヘテ讀サレハ叶
ハサル書也其次ニ近思錄ヲ讀ヘシ朱子モ近思
錄ハ四子ノ階梯也ト云リ四子ヲスマスノ手ガ、
リトスル書ナリ又云義理ノ精微ハ近思錄ニ
コレヲ詳ニスト然レハ脩身齊家ノ大要ヲ
知リテノ義理ノ精微ヲ辨シテ邪路異端

ニ惑ハサルヘシ其次ニ四書ヲ讀ヘシ其次第ハ
大學論語孟子中庸トユキワタルヘシ朱子云
先大學ヲヨミテ其規模ヲ定メ次ニ論語ヲ讀
テ其根本ヲ立テ次ニ孟子ヲ讀テ其發越ヲ觀
次ニ中庸ヲヨミテ古人ノ微妙ノ處ヲ求ム又曰
四子ハ六經ノ階梯也ト其後六經ヲヨムヘシ是ハ
身ヲ十分ニ脩メ家國天下ヲ十分ニ治ムル
道具大學ニ教ル所ノ本書也其次第ハ詩
書禮樂易春秋ト讀ヘシ詩ハ集傳書ハ蔡
傳禮ハ儀禮經傳通解續儀禮經傳通

解周禮禮記ノ古註ヲ看ルヘシ樂公全書トシ
大畧ヲ經傳通解ニテ會得コレ又蔡氏律呂
新書ヲ見ルヘシ易ハ本義啓蒙著卦考誤
ヲ用ユ春秋ハ左公穀ノ三傳并ニ程傳胡傳
ヲヨムヘシ果シテ如此通覽セハ聖人治術ノ
真理ニ悟入セシ然レハ歴史ニ涉ラサシハ
政事ノ失得世代ノ沿革及ヒ存亡治乱ノ
跡ヲ知ルヘシ能ハス因テ史類ヲ讀ヘシ勿論全
史ヲ通覽スヘシ然レハ至テ浩博ナレ編年
ノ書温公ノ通鑑ヲ讀ヘシ一代ノ史ト違イ

數代ヲ聯屬セシモノ故記憶スルニ甚便也
朱子ノ綱目ハ麟經ニ擬シテ文例ヲ以庶長
貶ヲタテヌレハ是非權衡公私ノ情偽明白瞭
然タリ須ク熟讀玩味スヘシ蔡九兩段カ廣治
平畧史學ノ部綱目總畧ニ發潛德之幽
光ヲ誅奸雄干已死者此書也別正潤之異號
辯冠履之殊今者此書也ト云リ能詳ニセ
ルモノト云ヘシ其外之記祖禹ノ唐鑑丘瓊ノ
世史正綱等通覽スヘシ叔漢唐宗ノ三代ハ
制度礼法ヲ制セシ世ニテ丘濬モ下ノ三代ト

潜按二部經此說
云リモト元人ニ出タリサレハ此三代ハ全史ヲ熟讀
スヘシ志ノ部ハ猶更心ヲ潜メテ反復ス
ヘシ宋史ハ世一史ニアリ希ナルモ也弘簡
録ニテ事体ヲ知リ文献通考ニテ制度ヲ
見ルヘシ何維騏カ宋史新編ハ脱々カ宋史
ノ誤ヲ正セリ讀スニハアルヘカラス右ノ如クハ
沿革損益存亡治乱ノ跡心胸ノ間ニ瞭然多
ク然レモ典章經制ヲ明カニセサレハ存亡理乱
ノ因ル所ヲ知ルヲ能ハス故ニ馬端臨カ文献
通考ノ序ニ竊嘗テ以爲ラ理乱與衰不相因者

也晉之得國異于漢隋之喪邦殊于唐代各有
史自足以該一代之始終無以夫執首五察爲也
典章經制實相因者也殷因夏周因殷繼周者
之損益百世可知聖人蓋已預言之矣トアレハ
制度ヲ明カニスルノ學子者ノ第一義也其大
畧ヲ舉レハ禮樂兵刑之制賦歛選舉
之規ヨリ以テ官名ノ更張邊要ノ形勢校舉
違アラス其變通之故弛張之術イマ多遠三易
カラストイハ心ヲ潛ムヘキ所ニ非スヤ馬貴與
又云考制度審憲章博聞而強識之固

通儒事也。典章制度三羽カナラサレハ通人達士
ニアラサルヲ見クハ是ヲ以テ制度典章ノ書目ヲ
左方ニ列ス。杜佑カ通典ハ上古ヨリ肇リテ唐ノ玄宗
ノ天寶ニ至ル凡ソ歷代ノ沿革故叙然トシテ考ヘ
佐カ自序ニ曰夫理道之先在乎行教化教化之本
在乎足衣食。洪範八政一食二貨。夫子曰既富而
教斯之謂也。夫行教化在乎設職官。設職官在乎審
官。大審官大在乎精選。選舉制禮以端其俗。立
樂以和其心。此先哲王致治之大方也。故職官設然後
興禮樂焉。教化隨然後用刑罰焉。列列郡

俾分領焉。置边防遏戎狄焉。是以食貨爲之首
選舉次之職官。又次之禮。又次之樂。又次之刑。又次之列
郡。又次之边防。未之或覽之者。庶知篇第之旨也。下
其規模宏大考計該博。モトヨリ議スヘキモノナシ
然レハ諸儒ノ討論辨駁ハ多ク欠テ附載ヤス。實員ニ遺
憾トス。一本諸儒ノ説ヲ附載スルアリ
通行モ本本文ニ云所ノ如シ 文献通考ニ至テハ節目
明備。大取精密。審ニシテ諸儒ノ辨論。聚萃ニシテモラサス
又馬氏父子ノ評論ヲ附シテ断案トス。其成規ハ全
杜岐公ノ書ニ根據シテ博考。コレニ過クハ可謂制度之
學子至此而極矣。下門ヲ分クモノ。下有四卷トスルモノ。三

百四十有八父子二十余年ヲ経テ成ル所也其次序
田賦錢幣戶口職役征權市糴土貢國用選舉
學校職官郊社宗廟王禮樂兵刑輿地四衣同
十九門ハ共ニ杜公ノ規則ニ倣ヘリ其餘ノ經籍精帝
系封建象緯物異ノ五門ハ通典ニ載セサル所ニ
テ諸書ヲ採摭シテ修成セルモノ也凡ソ通典ニ載ル天宝以
前ノ事ハ其漏ルモノヲ増益シ天宝以後宋ノ寧宋ノ
嘉定ノ未マテノ事ハ續テコレヲ附列セリ但經籍以下
ハ經濟ノ要用ニアラサレハ多クカラ費スニ足ラス鄭
樵カ通志畧ハ是モ通典ニ因循セシモノ也然レ凡ソ其

目ニ氏族畧六書畧七音畧天文畧地理畧都邑
畧謚畧器服畧樂畧藝文畧校讎畧圖譜畧金
石畧災祥畧昆虫草木畧凡十五畧出臣胸臆
不涉漢唐諸儒之議論曰禮畧職官畧選舉畧
刑法畧食貨畧凡前五畧雖本前人_レ之典亦非
諸史之文也ト云リ古人ノ評ニ其氏族六書七音等
ノ畧ハ考訂詳明ニシテ議論精到ナリトイヘ凡ソ天文地
理器服等ノ畧ニ至リテハ太_々簡也ト云リ愚心竊ニ
其書ヲ考ルニ氏族以下器服ニ至ルマテノ諸畧タトヒ
精細ナラス凡ソ傷マシヤ禮及ヒ職官選舉刑法

食貨ノ五畧三至テハ、尽ク通典ノ全文ヲ寫シテ、
損益ナク又天竺以來ノ事跡ヲ以テ陸續銓次并
ルハ何リヤ杜公ノ書ハ此五ノ者十二ニシテ八ニ居ル由此觀
之、其優劣自ラ明カ也然ハ學者ヨク通考ヲ讀ハ
通典通志畧ハ讀ニ及ハス若シ亦藏書ニ乏シキ者
通考等ノ書ニ代ヘ可ナリニ用ニキハ文献通考
纂要

此本五折カ續通考ヲモ收メ入ル續考ハ明會
典ニ載セタレハ會典ハアレハ藏メサルモ甚モシカラ
ス一体續考ハ本書ノ成規ニ背ケリ見ル者

ソレコレヲ知ラン

朱建治平畧蔣先庚治平畧全書蔡方炳廣治
平畧等ナリ此外ハ考古編博物典彙等アレハ
甚多畧セリ然レ共ニ制度ヲ考ルノ階梯也唐六典
明會典讀スシハアルヘカラス

六典ハ華本ナシ寫本アリ近衛本アリ會典
卷數ノ多キアリ圖式ノアルアリ又無モアリ句
讀圈癸アルアリ小字ノ本アリ小字ノ本ハ圖ナ
シ是亦害ナシ

又吾邦ノ上古ノ律令格式等ノ書讀ヘシ和書ニハ

此外ニ政事ノ裨益トスヘキ書ナシ

格律殘闕シテ僅ニ遺ルモノ百一ノ三律内乱

ノニツラ除カレタリ諱ハ所アル故ナルヘシ

本ト永徽律ニヨリシモノナレハナキモ苦シカラス

金玉堂中抄法曹至要抄ノ如キハ鄙俗

ニテ取ルニ足ラス

律ノ書ハ唐律明律清律等讀ヘシ

唐律ハ永徽律ナリ華本ナシ寫本ノ三也明

律ハ翻刻アリ清律ハヤリ明律ナリ洪弘

緒ノ輯註トスモノ宜シ同人ノ集メシ成安案質

疑トスモノハ快アリ清律ニツケテ讀ヘシ罪犯

ヲサバキニ丁ヲ取メタルモノ也入組タルムワカキ丁

ハ上裁ニトルトテ縣官ニテサバキノアルノニテ天子

ノ直サバキ也ソレラバ一皮コトニ刻リ足シスル故ニ博

宏ナル也今案全集モハ快アリニ書共六二大ニ

律意ヲ補ヒ法家ノ助トナルモノ也清律ノヨキニ

アラス律意ヲトク註解ノヨキヲトル也

無冤錄洗冤錄檢驗指南ハイワレモ檢屍ノ書也

讀スニハアルヘカス

無冤錄ハ和本アレヒ焼板ナリトテ希也和文ニ

直シ名モアリ。洗冤錄ハ新渡ノ巾箱本アリ
檢驗指南ハ潘月山カ未信篇ノ中ニ收ム
清至徳明カ讀律佩觿ハ法律ノ真理ヲ詳
ニ明カセリ其序ニ春秋ハ無象之刑書律ハ威用之麟
經也ト云リ至言ト云ヘシ此外律ノ末書區タアリ然
レ氏大抵是ニテスム也律ノ諸註ヲ多ク見シヨリハ
成案質疑ノ類ヲ讀テ活潑ヲ得ル愈レルニ如ク又
公案ノ類ハ俗書小説ニテ取ニ足ラス明ノ桂萬榮カ
棠陰比事モ臬事ノ根極カ立タレハ用立又モ也唐
六律學博士ヲ置ク吾邦ノ古ハ明法道ハ則此

學子也

職原抄刑部省大判事一人明法道輩在
之又或部省ノ下ニ明法博士二人注相當
位下唐名律博士此官晉ノ代ニ始テ置之唐
コレニ因ルト云ハ品以下及庶人ノ子ヲ教ル
掌ル官也ト聞書ニ見エタリ

唐虞ノ世ニ臬陶トナリ周ノ世ニ孔子魯ノ司寇
トナリ周禮ニ讀法アリ書呂刑アリ其任ノ重キヲ
知ルヘシ物叔達カ明律ノ跋ニ其有虞氏ノ代爲
有成典欵爲無成典欵是未可知焉傳曰五刑之

屬三千云爾也君子蓋闕如雖然先王所以齊
斯民者何以示於後世耶將有成典也今也焉
此說是十其三千ノ刑罰書ナクシテ暗記セシ或
人云罪狀三千アルヲ云フ刑法三千アルニ非ト云是
ニアラスタトモ罪狀三千アルニモセヨソレヲ断スル刑法
ナクシテ可ナランヤ鄭ノ子産刑書ヲ鑄タル辨論
文献通考ノ刑考ニ見ヘタリ又戰國魏季子惺法
終ト云アリ後世ノ律ハ是ヲ敷演損益セシナリ當
今ノ世迂儒俗士ノ律ノ用ヒカタキヲ云モノハ固リ
律意ニクヲケレハ也近思錄ニ王介甫云律ハ八分ノ

書也トヨロシク玩味スヘシ
兵法ハ古者司馬ノ職掌ニシテ其任尤重シ講究
セシハアルヘカラス先ッ孫子ヲ讀テ用兵之真理ニ悟
入スヘシ明ノ黃邦彦カ孫子集註ハ魏ノ武帝以下
唐宋諸名賢ノ解ヲ集成セリ七書ト云フ宋ノ元豐
中朱取ト云者編次セシヨリ起レリ其次第ハ孫子吳
子司馬法尉繚子三略六韜太宗問並ト列序セリ
蓋撰者ノ微旨アル也其註ハ金ノ施子美カ講義
明ノ劉寅カ直解等讀ヘシ此外注解甚々多シ大
抵大同小異也讀サルモ可也殊ニ清人ノ注本ハ支離汎

濫取ニ足ラス宋ノ曾公亮カ武經總要ハ希ナルモノ也
然レ尼茅元儀カ武備志ノ中ニ多ク收ノ載タリ武
備志ヲ讀メハ總要ハ讀ニ及ス

武經總要ハ宋ノ仁宗ノ時曾公亮ニ命セラレ
シ勅撰ノ書也故ニ仁宗皇帝御制衣ノ序アリ
凡テ四十卷内制度十五卷邊防五卷故事十
五卷占候五卷アリ制度ヨリ邊防マテテ前集
トシ故事ヨリ占候ニ至ルマテテ續集トス尚書工
部侍郎參知政事丁度カ奏請ヨツテ序ヲ賜
ヒシ也丁度ハ總裁也同ク編定ヲ加ル者ハ天章閣

待制曾公亮也占候ノ舊說ヲ考究スルハ司天監揚
惟德也古ヨリ兵書ノ集成如此ナルモノナニ後世其規
矩ニ因循セサル丁度ハ武備志モ此書ヲ骨子トシ
テ作レルモノ也武備志ノ連弩并ニ砲ノ圖分明
ナラサルモノハ總要ヲ其終トリ入レシ故ナリ世遠
ク時隔リテ圖式其真ヲ失ヒシナルハ愚カ見シ
總要ハ明人ノ翻刻ナリ又按ニ宋史藝文ノ部
ニ歐經トイフモノアリ總要ニモコレヲ其終ト
入レシニヤ砲ノ圖說解シ難シ然レニ巧思ニ長
セル人アリテ意ヲ以テ其制ヲ迎ヘハ制衣造ス

ルイ能ハスト云ヘカラス愚己ニ蹶張弩并ニ蹶
石ノ小様ヲ制衣ス武備志ノ圖說ニヨルトイ(氏心ヲ
專ニシ思ヲ焦ス)殆ト叙造ノ如シ因テ知シ其
博採羅載是亦格致ノ端ナルイヲ武備志ノ
卷タルイ凡テ二百甲卷兵訣評アリ戦畧考ノ
リ軍資負乘アリ占度載アリスヘテ五門其兵訣
トイフモノハ武経七書ヲ載ス其注ハ明ノ趙光祐
カ武経正儀ヲ刪畧セシ也其下ニ唐ノ小室山ノ
隱士木子笈著ス所ノ大白陰経三卷并ニ
宋ノ雄武軍推官許洞著ス所ノ虎鈐経三卷ヲ附

載セリ戦畧考ハ春秋戦國ヨリ以來宋元マテ攻城
野戦ノ術奇正変化ノ迹ヲ列举セリ武経總要
ノ故亥續集唐荆川カ武編ノ續集講全書ノ
兵覽ト同シ而シテ其髓脳ヲ得タリ陳練制ハ全
ク明ノ趙虛舟本字カ續武経總要ニシテ其下ニ
ハ木子笈許洞張懌裴子野總要制度ノ部通典
明會典俞大猷戚南塘等カ操練ノ圖博採シテ泄
サス軍資負乘ハ營法戦法ヨリ始テ攻守ノ器械水利
火器比田馬政ニ至ル占度載ハ占ハ天時陰陽孤虛旺相
演禽遁甲ノ類度ハ方輿海防四夷航海ノ事ニ

至ル該博備悉蔚然トシテ大觀ヲナセリ熟讀セシハ
アルヘカラス唯遺恨トスキモノハ大砲ノ制作用法至
テハ甚畧セリ此書ノ闕典ハ也

戚南塘カ紀効新書ハ節制嚴明作用適實尤
熟讀スヘシ

通行ノ小字本アリ又大字ニテ体裁別ナルハ
リ其中ニ影ノ流ノ劍術ノ勢法ノ圖ヲ載タリ
講武全書登壇必究武備志等ニ引用スル
モノハ皆大字ノ本也然レハ小字ノ本簡約ニシテ
宜シ大字ハ十四卷アリ小字ハ十八卷也卷數多

シトイヘ反テ大字ノ方ヨリカサヤクニ案スル小
字ノ本ハ後ニ刪改セシモノナリ

戚繼光カ兵ヲ用ル丁騷發電舉出入神ノ如シ朱明ノ
世大祖ノ時ヨリシテ操練ノ法明備ナリシカ嘉靖萬曆
ノ頃ニ至テハ其制拂地セリ故ニ京師ノ軍ヲ各ツケテ眉
毛軍ト云シトナン其用ナキヲ云也

實貝用編萃鈺京營議諺有之京軍謂之眉
毛軍ト云不妥善留不堪用

然ルニ戚繼光爲總兵官鎮守薊州永平山海諸
處言邊平木疆律以軍法將不堪請募浙人爲二軍

倡勇敢督撫上其議許之浙兵三千至陳郊外天大雨
自朝至日昃植立不動邊軍大駭自是始知軍令下明
史卷二百十二列傳第一百戚繼光ノ傳ニ見ヘタリ新書三
載セシ鴛鴦陳ハ百戰百勝ノ法也トイヘリ俞大猷ハ正氣
堂集アリ往トシテ兵謀師律ニアラサルナシ俞子首
ヲ豪傑ヲ命シテ器識高遠操履卓異ナリ其軍
ヲ行ルヤ持重ニシテ古名將ノ風アリ其學子術ハ虛齋蔡
氏ニ出テ大易ノ玄趣ヲ極メ少シテ荆楚ノ長劍ヲ學
ヒ後ニ虛舟趙氏ニ從テ劍道ノ奧秘ヲ尽シ終ニ常山
蛇勢ノ法ヲ發揮シテ其意ヲ推テコレヲ兵師ニ用陳

法幾微ヲ著シ方圓ノ二圖ヲ画テ陳法ノ極致ヲ明セ
リ又其間花營三異宜執方奪前虹ノ如キハ皆其意見
ニ出タリ且ノ因循スヘシ侍郎譚綸與書云節制精明ハ公
不如綸信賞必罰ハ公不如戚精悍馳騁ハ公不如劉然
皆小知而公堪大受蓋誠似霍子孟任如諸葛亮大
似郭子儀忠似文文山毅似干肅愍可以托六尺之孤
寄百里之命知及之仁能守之當今之世舍公其誰哉
ト此書ヲ看テ俞子ノ豪傑タルヲ察スヘシ戚ハ繼光也
劉草堂顯也干肅愍ハ干謙也俞子稟大司馬譚書
ニ稟因心基以猷爲老乎云氣躡強健因心基如不信待

猷至其下時誠選三千好漢各提鎗棍以猷一人獨當不
令其披靡辟易請就斧鉞下正氣堂集人中アリ其
勇猛絕倫コレヲ察スヘシ又古今文集の中ニ如此ノ文アラシ
ヤ真ニ奇事ト爲スヘシ玉鳴鶴カ登壇必究ハ鞞鈴ノ
根本ヨリ起リテ當世ノ事ニ及フ首尾本末際々シテ洩
サス學者ヨク此書ト武備志トニ熟セハ兵法ノ事理ニ於
テ彬々タラシ其躰ハ丘濬ノ大學衍義補武備ノ部ヲ載
セテ其用ハ總要以下俞戚等ノ書ヲ取レリ韃虜ヲ禦
クニ至テハ翔野子ト云者ノ説ヲ載タリ其中ニ取ルルモ
ノ多シ不知王鳴鶴カ自ラ託セルヤ否ヤ朝鮮ノ役ニ至テ當

時搢紳ノ奏疏數十篇ヲ載ス愚心讀テ比ニ至リ慨然トシ
テ嘆テ曰明人吾軍ヲ懼ル、丁虎ノ如シ懦懦ノ胆腸痿痺
シテ張ラス是ヲ以テ計謀怯懦ニ出テ獨達奇偉ナルモノ
ナシ若シ天吾豊臣氏ヲシテ數年ヲ假ス、丁アラハ吾兵ヲ
分ツテ一軍ハ鴨綠ノ江ヲ涉ッテ遼東ニ出テ寧遠山海
衛ニ一軍ハ渤海ニ浮シ天津ニ至リ直ニ燕京ニ入テ其腹心ヲ
衝シテ握掌ニアリ然レモ無名之師不義之兵兩國
敵我ノ士民其慘毒ニカ、ル者勝テ討フヘカラス天爲シ
其命ヲ勅絶スルカ吁海防ハ實ニ朱明ニ起レリ鄭若曾カ
籌海圖編江南經畧萬里海防ノ三書ハ共ニ海

防ノ要ヲ述、熟覽スヘシ若曾、陽門王氏ノ門人ニシテ
總督胡宗憲カ參軍ナリ海防ノ策畧精細ナルモノ此右
ニ出ル者ナシ登壇必完武備志等ニモ刪約ニシテ舉タ
リ然レ海防ノ一守國ノ第一義也尤精神ヲツケテ講
究セシハアルハカラス依テ全書ヲ見ルヘシ王陽明ノ武機
捷録ハ其麾下ノ將校ノ爲ニ著ハセシ所ニシテ歷代諸
君將ノ事迹ノ中ニテ孫吳ノ真理ニ符スルモノヲ撰取リ
書ナシ武經ノ底ニ温ラ抑カント欲スル者ハ此書ヲ熟セ
シアルハカラス其序ハ武備志ヲ著ハセシ弟元儀カ撰也
元儀カ祖鹿門茅坤ハ陽明ノ下ニ出タリ元儀ハ遼

東巡撫袁崇煥カ副將也

其注、郭子章カ著ス所也

子章ハ廣秘笈ノ中ノ馬記劍記ノ撰者也

續集ハ高周祚ノ作ル所也

崇禎ノ時閩廣ノ鎮撫タリ

愚竊竊以王命戚氏ノ三家ヲ呼ビテ明朝兵學ノ三家トス
此余ハ皆以數家ヲトリテ出入セシモノ甚タ多シ及多其範
圍ヲ出ルイアタハス不讀モ可也但何妙實カ兵錄ハ讀シハ
ルハカラス其中ニ收録スル西洋火攻神器說ト云モノ大砲巨
銃ノ事ヲ説リ至テ精密ナリ前人未發ノ發揮アリ未

廣名將譜ト云
モノハ明ノ黃道
周ノ輯ル也
博物典彙ト
同作也

夕諸兵書ニ出サル所ノモノ也疑ラズ明史藝文志兵書
ノ部ニ出セル張壽西西洋火攻圖說ト云モノニヤ其外ハ紀効
新書等ヲ引用シテ別白セルナシ惟コノ神器說ノ三ハ
兵録ノ骨子ナリ又神器說ト云モノ趙士禎カ撰也小銃
ノホカタノミ也煩冗ニシテ用ヲナサス兵録ノ中ニモ要用ナ
モノヲハ收録セリ宋ノ張預カ百將傳明ノ何喬新カ續
百將傳ハ明朝ニテ武學校ニ置武學生ニ讀シメタル書也
此類ノ書數多シ閩外春秋古今將畧廣百將譜
古今名將傳等アリ
兵學大抵コレニテ備レルニ庶幾シ但博覽ヲ阻スルニ

非ス人々精カノ至ル所氣魄ノ及フ處此ノ限ニ非ス博涉イヨク
進テ知見イヨク明也學者少成ニ安スルナク勿レ

清ノ朱彞尊カ日下舊聞引用ノ書千部ニ余レリ
其中兵書ヲ引モノ武經總要ト等兵二十六字ト僅
三部ノ博覽彼カ如クニシテ兵譜ヲ讀ノ如此キハ
何ソヤタトヒ他書ニ該博ナリモ死生存亡ノ係レル取大
事ナルモノニ精到ナラスニハ豈實用ノ學ト云足ニヤ清
朝ニ兵書ナシ故ニ博涉スルナク能ハサルカ

清朝ニ朱明ノ兵書悉ク絶テ簡明目録ニモ劉寅七
書直解ノ三田各ノミヲ載タリ此方ニハ翻刻モアリ

華本モマ、殘レリ。物ノ廢絶余ナレカ吁

愚嘗テ四庫全書簡明目錄ヲ閱ス卷之九子ノ部ニ兵家類握機經一卷六韜六卷孫子一卷兵子一卷司馬法一卷尉繚子五卷黄石公三畧三卷三畧直解三卷素書一卷李衛公問對三卷太白陰經八卷武經總要四十卷虎鈴經二十卷何博士論一卷守城錄四卷武編十卷陳紀四卷江南經畧八卷練兵實紀九卷雜集六卷紀效新書十八卷右兵家類二十部一百五十三卷僅ニ此ノミ謂フヘシ甚之ト愚和漢ノ兵符ヲ輯ルル尤多シ自ラ以爲ク兵書ノ富ルヲ惟清ノ天子ニ讓ラスト痛快ニ

夕ハス唐山ノ兵書百十七部八百二十卷和流ノ兵書七百五十余部千八百六十二卷和漢通計スルニ凡ソ二千六百八十四卷也附餘ノ城壘戰地之圖攻守器械之式凡テ二百七十六幅也別ニ兵聖閣兵書目錄ニ与アリ其中ニ明備ト云農桑ノ書ハ後魏ノ賈思勰カ齊民要術元ノ王禎カ農書周之璠カ農圃六書孟祺カ農桑輯要

錢塘ノ張師說カ序ニ農桑輯要一書輯者既不詳トアレハ農政全書ニハ孟祺カ作ル所トスリ元史類編伯顏傳ニ附載スル孟祺蓋ク久ナル乎同ニ暢師文字純甫并監察御史上所纂農桑輯要書尋遷漢

中道巡行勸農副使置義倉教民耕植法コレヨリ
ヨリ暢師文カ作ル所カ撰者ノ穿鑿入用ニキリナカ
ラ博考ノ多クニ載ルナリ

李氏農事直説姜氏衿陽雜録張國維力農政
全書

此書ハ齊民要術農書農桑輯要農桑通訣救荒
本草等ヲ纂集輯セルモノ也農政全書アレハ他書ハ挾サル
モ可也書中ニ玄扈先生トアルハ徐光啓カト也撰者張
國維ハ清兵ニ死ス絶命ノ詞アリ艱難而戰戴吾君
拒敵辞唐氣厲雲時公仍爲朱氏鬼精靈富傍

孝陵墳コレヲ讀者誰カ流涕セサラ夫農事ハ國用
ニレテ私事ニアラス國用ヲ務ル者ハ必國難ニ死スヘシ其志
不在自己在國家也

救荒ノ書ハ荒政要覽康濟録救荒切要等讀ヘシ
荒政要覽ハ明ノ俞汝爲カ輯ス所也康濟録ハ清
ノ乾隆帝ノ勅撰也要覽ハ翻刻アレハ燒板ニテ其少
ク之取り寫スヘシ清ノ王右槐カ錢穀備要ノ中捕蝗
ノ精細也往テ讀ヘシ

泰西水法ハ水利ノ書也西洋耶蘇利瑪竇カ作ル所ナ
ルヲ以テ官林ニテ世ニテ武備志ニ載タル異域水法

云モノ則泰西水法也清ノ邵遠平カ續弘簡録元史類
編卷十五賈魯傳魯治决河ノヲ載セ又歐陽玄カ至
正河防記ヲ載テ其功用ヲ論シ注ニ圭齊集ヲ引テ里
程ノ遠近地形ノ高卑用物ノ多寡費用ノ度量等
ニ至ルマテ是ヲ序スルノ精細也宜ク熟覽スヘシ
又當今 官家ノ吏吏操決ノ類命令條例ノ如キ刑
罰獄訟ノ書通覽見記憶スヘシ

刑罰令條彙纂憲法部類コレ其物也

夕、ニ古廣キノミニシテ當今ノ務ニクラキ、達識ニ非ズ風
流博雅ニシテ詩文ニ長シ時務ヲ知サル、俊傑ニアラス

明ノ太祖御製文集誥文有曰爾濂雖博通古今惜
乎臨事無爲每事牽制弗決若使檢閱則有餘用
之於施行則甚有不足下濂翰林學士宋濂也博學
多通ナリトイヘカクノ如クナラ、亦一迂儒ノミ何ソ恐
レ、ニ足ニ三國ノ時劉先主訪世事於襄陽司馬德操德操
曰腐儒俗士豈識時務者在俊傑ト答ヘシニテモ儒者
ノ迂腐ナルヲ察スヘシコレ學者ノ通患ニシテ且弊今世ニ
至テ極マレリ其中或ハニロヲ極メ經濟ノ有用ノト云者
アレバ其爲ス所ヲ見ルニ悉ク鉛槧雜博ノ場ニ出テ一
モ其精神ヲ有用實務ノ書ニ寄セサレハ是亦空譚虛論

也又濂洛閩閩ノ学ヲ修レテ性命天道ノ説ヲ明シ而
シテ制度文爲ノ流ヨリシテ刑律兵農ノ説ニ至テハ
目シテ事功トモ功利ト号シテ概舉シテ排擯シ別天
地アリテ世故ヲ憂サル者アリ浮屠氏ト奚ソ擇カン潜鈍
劣ナリトイハレ竊ニコレヲ患フルコト深シ是ヲ以テ爲ス所
ノ事尺ク政事ノ要領報國ノ急務ニアラサルコトナシ何
ソ世ノ儒生ノ詩文ニ耽リ一生ノ事業詩文集示數卷ヲ著
スニ止リ或ハ鹵莽滅裂ノ学ヲ以テモ女リニ先賢ヲ輕視
シ奇説ヲ建テ聖經ヲ乱ルカ如キハ豈敢テセンヤ夫經義
ヲ修メテ經世緯民ノ道ヲ明カニシ世史ヲ讀テ廢興

治乱ノ機ヲ曉リ制度ヲ講シテ沿革損益ノ變通
シ律令ヲ習テ訟獄ノ處置ヲ詳ニシ鞫畧ヲ究メテ制
勝禦敵ノ術ニ達シ邊防ヲ修メテ守備ヲ嚴ニシ農
政ヲ学ヒテ生理ヲ厚ナクス豈實用ノ学ニ非スヤ若吾
黨ノ士果シテコノ成規ニヨラバタトヒ一經ヲ治メ一書ニ通
シテ講師タルコトヲ得スモ度幾クハ朝議ニ預クコト
帷幄ニ運籌スルニ及ヒテハ一日ノ長アラント云爾

寛政七年乙卯夏五月十有一日兵原平山
潜子龍氏揮毫於城西兵聖閣

と穉世の多と自滅に於て終れぬ又どりのて死せむ
因小記に秀和の婦も國義夫人の源を母とせむとあり
賢人かゝりてあはれて源を母とせむとあり又小槻に在りては
後盟の人親書女子小出たりて由在るを力及むるに
及ぶるにありては一書て作られ海河にありては
山形初の海刀梁なぐさ山は源を母とせむとありては
身と枝と山形もあらむ山形にありては
つるにありては山形もあらむ山形にありては
の女れに被せし山形もあらむ山形にありては
にありては山形もあらむ山形にありては

とんやまのつるの山形にありては山形もあらむ山形にありては
切えりてちかけたる山形もあらむ山形にありては
は合未未の山形にありては山形もあらむ山形にありては
秋末足まの山形にありては山形もあらむ山形にありては
好も山形にありては山形もあらむ山形にありては
山形にありては山形もあらむ山形にありては
山形にありては山形もあらむ山形にありては
山形にありては山形もあらむ山形にありては
山形にありては山形もあらむ山形にありては
山形にありては山形もあらむ山形にありては

秀和の多と自滅に於て終れぬ又どりのて死せむ

此の文帛くつきて由縁あり人の訪をたゞこれ
とらみえられぬ志うせしり中畧

晋其角のく増りて芳 固くきりて

策者きくわきあゆむをまゝ如河科一封落
塩漬一桶を箱下りる意心く種あふま致受油の

山序の由縁同社中にも由縁をま下の然る言志を

由所の由縁都文の心忘る一興の信りて嵐雪

杉風我亦も一序を杉柳を面白降出しく風情

くのみをれぬく意中の杉杉の言をいしく此言は

月、晴照りて風無今、控籠りておつて文

ゆき、五早丑海流、ぬりたき入吼止お静り文彦

料紙も片寄りて人集りて蒲室とくりき着

浮世といふ方もあはせよと多ししくと敵く

者あ人言ふく業也にて松本、浅井家の浪人

堀部、浮き浪大なる浮きまらふ今夜山隣を良上

時分及る厚き、押寄りて各年束く、送恨と重ん

たあ大石内蔵助、徳平六人のあ相く、只今吉良

氏とておつて方を隣りて好む武士く、情をうま

いお勢もいふ、未代く、山石をえと、まねの歌いしく

い戸をさるる、及、四時火く、元由用い、まらりて、い

好むとも果きたる立出れそ風情神妙ありよ
つもわらふも今熊も消えて其角をひき
とせ涯の名跡えんとてつそを乞り出せぬ
名を良家とせひいへし

我をとおりの道とせし

と高くとし青子くつ戸を閉て内とせし
袖は柳灯と花と始終と何やよそのまを骨の
小深入女のゆいきれ絶声風飄と吹きよ
晚天小あつてお懐既に違へたりとて大石を
税大なる深きお穂便小謝多と述べてと天

晴武士の巻と云ふ

日乃思やたすち倅く石子氷

と中控くし深きう精神未々眼お小志強く
美らゆの来く熟魂れ具と徳を甘く春くち
彼はしゆを操りし血存もあつて彼はるも
屋に余のた波小及ひつて竊小追と古
下く先余りもせくも余は初貴高しゆ

十二月廿日

其角

又隣村

月電の中や命のたす

因よあす寸室井其角ハ寛文辛丑年七月十七日
授卒ハ母方姓ト云々姓ハ中ノ小内父ト云々須
ト云ハ列明田ノ人始ノ醫ト云々某侯ハ以辭して後隠
者ト云々元禄六年八月廿八日没ス享年七十二母貞孝
子ト云々ハ没ス其角幼名源助ト云ハ源延室の
初ノ桃青ト云々入テ能澄ト云々其角螺全或ハ螺子
幼名麒麟ト云々晋其角ト稱ヤハ晋其角ト
易経小のふりト云々室晋其米元章ト視ヤ鶴
ト云文字也其祝と得て室晋其二字室井晋子ト云

初^{カキ}ト云々ト云々龍小額ト云々ト云々其角小掛ト云
室晋其ト号ス幼年儒ト寛井先生小学ト醫ト
州刈某小学ト醫名ト順哲ト云詩ト天巔和尚小学
ト云々龍小学ト云々後一家ト云々ト云々英一蝶小学
ト云々在而堂ト号ス貞字の次堀江町小居ト云々ト云
吾^{版部}破笠利州等ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
小持ト云々和漢文之深ト云々其角ト号雷柱ト云々ト云々又法
川ト云々ト云々又在雷堂ト云々序文合序文ト云々
号あり画名ト号著子ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々
あり元禄の末某場町ト云々某師堂の辺小住ト云々室永

四年丁亥二月晦日没ス享年四十七本樓上河
寺小葬并ス法名喜覚居士又河内郡少可長寺に
に墓碑あり其角宿摩小画一吾眼の達磨一紙と
埋と類柑子小凡く云々

九州島津家小姓河津也娘河家中河津宋女也
嫁ス天正九年宋女之齋藤出陣翌年とて使也
一付宋女方書女一送り一喜之出の如親風
ニ喜之上の如別控知伴の文相海と小漂ひ遂
小力鬼某及れふ入別妻を云々云々云々

の心慰小意の感一とて宋女云々齋藤云々
一有レ世又今奥平家一室物一也と用干
乃折柄一亦中一皆今の中書
大も此等或は坊にて持てらるる事ありともあるあり
一由一ゆいゆいともなきありゆいゆい後今志れ寸也云々
一り相れ燦かるとも海もれり流のぬいこあはぬ思ひ
のやういゆいゆい今流の所乃消えとぬいこあはぬ
くるもぞ志せぬいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
一と祝ふゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
ぬいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

筆電り、宰人を、出技、おぼやかし、志を、たか
り、如、ま、り、向、り、し、の、
と、ま、り、中、の、中、は、
一、要、母、所、と、ま、り、お、わ、れ、と、り、た、い、り、の、所、を、
中、の、ま、り、の、西、部、り、と、り、作、り、

一、梅、中、極、明、日、と、り、ん、そ、り、お、わ、り、と、り、ん、

一、お、お、り、の、二、可、り、又、河、川、の、中、又、城、と、搦、り、石、子、り、二、尺、

一、お、お、り、の、板、十、尺、を、お、お、り、と、ま、り、お、お、り、と、り、
と、り、と、り、た、い、に、二、尺、と、り、一、尺、石、と、り、一、尺、を、お、お、り、
と、り、と、り、お、お、り、中、の、中、の、中、と、り、と、り、失、倉、た、り、と、り、

と、り、と、り、お、お、り、中、の、中、の、中、と、り、と、り、失、倉、た、り、と、り、

打、清、り、と、り、

右、尾、張、り、

左、尾、張、り、

一、お、お、り、の、中、の、中、と、り、と、り、失、倉、た、り、と、り、

一、お、お、り、の、中、の、中、と、り、と、り、失、倉、た、り、と、り、

一、お、お、り、の、中、の、中、と、り、と、り、失、倉、た、り、と、り、

宰相、殿、の、
御、方、三、つ、つ、
と、り、と、り、

西河引玉の如く誰進も胡の者も万の交は秋中後
の家康意なきに前目札板念海軍の事角の度
内言中報の尤苗若く謝の事二心は後非中意
柳面目も不存之尤人並に月日と違ひの事是非
了りし所存は然るは香徳婦君の由申すに申す
去方、家康の秋中十三夜元服の如く程はありし事
多平八郎の口より家康秘蔵の大事業物語を果園繪
に也中來の叔度と我に去方三度も不是と申す
因茲大敵と名附て多進は政可持之尤實に此途に
階より秘蔵の事

一城中に家康二時、西河引玉の如く他人の口より
松平意の事ありし事、婦君お照及、口より
口根より、世後不坊私に言ふ事あり、母
是事より、如程の事

本村長門守

猪飼左馬外及
四座屋

小田原城 林原康政

幸路歩札由申すに、西河引玉の家康方の由帷子と云ふ
一服認め、如く私事、能く古心坊由札、申入申す事

我輩も此帳子筋終る毎度此意を以て後六部中
の終るまで存し子と云ふは度中捕まらざる大概
と有りて之を以て之を以て七部に列す境江津等
に勤弁九日當り列すは勢甚日午刻山中城迄近
申候之度一より少く取付付し月と宗捕敵之六百
切捕。彼、惣兵と云一日より之を以て捕中と始とて
城十二之控を逐逐去り卯月刻に箱根山崎と
始出と云くは傳九之と云回原と云城と押詰拵
小回原と云城と外原と云據。其高平町南半八
町回りの里西山小回南海西方小只家次第は云卷

八先出旗幸九洲鳴津大友中因毛利吉川小早川房則
里見世外秋合を惣力之方金勢右の方陳八長云河原之
而羽軍たつ尉池田之君云平海旗前九鬼大隅と
振坂中務方たの方陳之續之長園哉中と津侍後
浮田宰相近江中絶之度四十年前付式ア少捕堀尾
常力一柳伊豆守山内對馬と大柵と少將房次と松崎
侍後次之内府山家中元酒井之尉天神國房と
右方勤系系羽軍中絶と云家康中捕ま酒井
宮内少石川之長井伊之部少松平國房と牧野
右馬進次と云申海旗元加友右馬外長等我部是

家康海族元万宮山濱木敷合海上三万余浦濱
不たに海と俄小窪地とぬりと凡渡を、階と階と
虎口際を後陣とす厚き所女に又町を厚き所十七八
町小川口濱際とす、中浦の浦まで寸比天去邊百
なく山圍と旌旗の物色との撞和風の翻り有松若
地立田の花紅多ふも喻ぐ非物貞態と移麻井
葦と地とくく歌味方と決絶とを刺那と早も時
此方ありぬ後お時百子に雷回射と居るくく疑
る上、枕天とありて下とありて、日底平と、山を越て
んと味方より肝と消る城中と若た好女意と

我を流遊ゆると推さるれあそまは小らん、上極
陳下の西と字、山頂と十丈余築と、相根山と連り
歌城と下と、山頂と、凡、館造極と、廣大、成有松
凡、聚樂大坂と、絶方と、外と、小陣城、横
天守櫓と、白松、耀天陣、居ると、冷、高、龍、山、出、路
別、山、横、成、や、り、魚、鱗、鳥、雲、と、陣、と、山、川、地、形、と、度
横、の、依、り、と、登、屋、あり、屋、形、と、松、竹、と、植、集、草、花、陣、居、城
中、葉、前、子、大、角、豆、と、蔓、竹、の、山、物、あり、と、熱、る、色、と
け、樹、木、あり、と、丸、院、木、あり、等、目、と、整、り、と、大、道、東
西、互、小、十、路、子、路、に、往、来、し、と、馬、お、の、目、と、れ

吾三時中時止時動 又曰中園之遠商人集り
東園之乃名物海物津之浦之魚也夫大層之鱈
之取物多境之絹布高貴と云ふことありて東園
今之拉女列棟掛小屋也亦名糧の子石と云ふ大船一万
金艘小船二万金艘とて運送無路ありて糸於て陣中一
日も少く多き子に別於陣中送生涯た之有退屈と
云ふ之はしる國茲海船勇士也陸より月報と相別と
繩城明渡しと云ふ條長らく其利姫斐津衣之
次女とて出仕中しと云ふ後河邊之必中回城清水と野分
菟と云ふ是も利姫斐助命とて城守と云ふ中一山園

出陣のより羽柴統元と長尾孫平次と始とて
信州若田志田於合と勢ありて万金勢上別確水と藤
松并回城と押寄と破城埋城と身付城大遠寺極意
少知是と又海系助命とて次武州岩槻と城淺野
孫平次將として中村常陸守元家康家中并持と
中多中勢鳥井長政の尉平忠七と中於合と方之子
押法曲端三石家破と中一持とてと云ふ、其之明と後
一と云ふふ物ありとれとてと云ふ城守大田十市書子留
姑夫中捕とて中子余人侍女女子未とてと云ふ音也
知子父母とてと云ふ身母とてと云ふ子とてと云ふ鳴悲と有候と

うたのる無心の世々今とて神せうる海武士の不端の龜
ふり志の無くは外國の列小田原の龜城の志女を来志
に捕らる後同國陣形民政令と争ふ津安房を楯
着龜の山圍く人殺儀陣時陣の取押多し列治系
中二つと志の城の海又同國忍の城國八列系出羽
奥羽の法率常例は牛結城於今三方全路押寄
水青くく支度し如城中の種く忍軍中く百是も祀
方多る及信く東國の名城ナに又その外小津南是
掛く波是城敷ナ二或ハ於近或ハ明後る今全
以説中ハ統るく河之之葦山の城小原は徳と栢の龜

十八年
大正
麦元八福海は方更戸國民部少増領聖阿波子生島
雅樂院の好遊馬の好習は信長於今も万余百
万を夜子痛攻れとくも今皇國の地は家康
の東國の石原の城方と志く也連る是凡そ中
是も神河の海く志の親上氏重文子年東國八列
の威と振る神村惣好く栢根の城三合戦の勇
もあつて二夜討殺のり候も不十分弱くも着城
運くく是も如く余も小無言甲斐分母古良將は
合戦の負は志の親河くも不敵と不敵とを恥
すく是も是も不敵と不敵とを恥す今度也

